

OSCE外相理事会における 武井副大臣スピーチ

(12月2日 AM)
(約4分間)

1. 冒頭

議長、閣僚各位、大使各位、そして御列席の皆様、

- 日本政府を代表して、OSCE及び議長国のポーランドに対し、OSCE外相理事会開催に向けた尽力に感謝申し上げます。また、アジアパートナーを務める日本の外務副大臣として、本理事会に出席できることを光栄に思います。

2. 地域情勢

- 国際社会は今、歴史的な転換期を迎えています。我々が守り続けてきた法の支配に基づく国際秩序が、脅かされています。
- ロシアのウクライナ侵略は、欧州に留まらず、アジアを含む国際秩序の根幹を揺るがす暴挙であり、厳しく非難します。また、ロシアの核の脅しは断じて受け入れられず、ましてやその使用はあってはなりません。我々、アジアパートナーがOSCE外相理事会に参加するのは、同志国が連帯して断固とした対露制裁を継続し、ウクライナ及び周辺国を支援する必要があるからです。我々は、侵略に立ち向かうウクライナと共にあります。
- 翻って目をインド太平洋に向ければ、中国とロシアは、軍事的連携をますます深化・強化してきています。岸田総理が6月のNATO首脳会合において述べたように、欧州とインド太平洋の安全保障は切り離せません。我々は、「ウクライナは明日の東アジアかもしれない」との危機感も持っています。

- 東シナ海及び南シナ海においては、力を背景とした一方的な現状変更の試みが継続・強化されています。中国は不透明な形で国防費を継続的に増大させ、軍事力を広範かつ急速に強化・近代化させています。
- また、北朝鮮による前例のない頻度と態様での弾道ミサイルの発射などは、東アジアの厳しい安全保障環境を否応なく国際社会に突きつけています。
- こうした我々が守ってきた国際秩序に対するあからさまな挑戦に対しては、地理的な範囲にとらわれず、国際社会が連携して反対や懸念の声を上げていかなければなりません。OSCE加盟各国の理解と協力を求めます。

3. 日OSCE協力

- OSCEが、多様な価値観を有する多くの国の参加を得て、信頼醸成という重要な役割を担ってきたことに敬意を表します。
- 日本は、30年に亘り、グローバルな安全保障課題に取り組む最も歴史の長いアジアパートナーとして、民主化や地域の安定に向けた取組においてもOSCEとの協力を強化してきました。
- ウクライナのOSCE特別監視団への専門家の派遣、中央アジアやアフガニスタンにおける国境管理能力強化のための財政支援などを実施してきました。こうした協力は、OSCE地域の平和と安定が、国際社会の安定、ひいては日本の平和と安全に直結するとの考えに基づくものです。

4. 結語

御列席の皆様、

- 我々は、OSCE加盟国が他の加盟国を侵略するという極めて

許し難い事態に直面しています。そして同時に、OSCEが設立以来取り組んできた対話に基づく信頼醸成による包括的な安全保障が、これまでになく求められています。

- 今年の日OSCEパートナーシップ30周年です。国際社会が直面する幅広い安全保障上の課題に対処し、ルールに基づく国際秩序を実現するため、OSCEとの協力を継続していきます。
- ご清聴、ありがとうございました。

1250文字, 約4分(300文字/分)

(了)